

浄敬寺だより

じょうきょうじ



発行日 令和二年一月一日 第三十四号

【法語】

「これにてしるべし。なにごともしるべし。なにごともこころにまかせたることならば、往生のために千人ころせといわんに、すなわちころすべし。しかれども、一人にてもかないぬべき業縁なきによりて、害せずなり。わがこころのよくて、ころさぬにはあらず。また害せじともうとも、百人千人ころすこともあるべし」

『歎異抄』第十三章 真宗聖典六三三項

【意識・解説】

年始早々ですが、衝撃的なお言葉を紹介しました。右に記したのは、歎異抄の著者とされる唯円さんと親鸞聖人の対話での親鸞聖人のお答えです。この前には次のような対話があります。「唯円よ、私が言うこと信じるか。それならば、たとえば人を千人殺したら往生が定まるとしたら、どうする?」「お師匠様、自分の器量においては一人たりともころすことなどできません。」

親鸞聖人が伝えたかったことは、私たちは自分の心がよくて悪いことをしないのではないということです。全てが縁によって成り立っていることに気付かず、善し悪しと判断してしまうことこそが、私達のどうにもならない煩惱なのです。

2019 年後半写真展



↑ 年末法話会 →



← しまい講 ↑



↑ 秋彼岸



↑ 三条別院報恩講 10 組団参 ↓



お寺でお茶席体験



← 親子ヨガ ↓



☆巻頭法話『年頭にあたり』☆

新春のお喜びを申し上げます。一年の経過は本当に早いものです。年が明けて今年には東京オリンピックが開催される年です。昭和三十九年にアジアで初めてのオリンピックが東京で開催され、「世界中の青空を集めたような快晴」と実況のアナウンサーが表現した開会式の様子が今でも思い出されます。十月十日という一年で一番スポーツに適した時期に開催されたオリンピックでしたが、今回は最も適さない真夏の開催です。「アスリートファースト」が強調される現代でもオリンピックだけは莫大なスポンサー収入が見込まれる「アメリカファースト」にならざるを得ないとか、事故無く終わることを願いたいものです。

今年四月十二日(日)には、三条教区第十組で宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を開催します。場所は柏崎市文化会館アルフォーレです。平成二十三年、東日本大震災の年に京都の本山で御遠忌が厳修され、四年後の平成二十七年には三条別院でも御遠忌が厳修されました。いずれも浄敬寺は大勢の皆様と共に御参りをさせていただきました。そして今回は地元十組での御遠忌になります。御遠忌とは、五十年に一度お勤めされる宗祖親鸞聖人の御法要です。例年十組は主に三月に産業文化会館で同朋会報恩講を開催していますが、

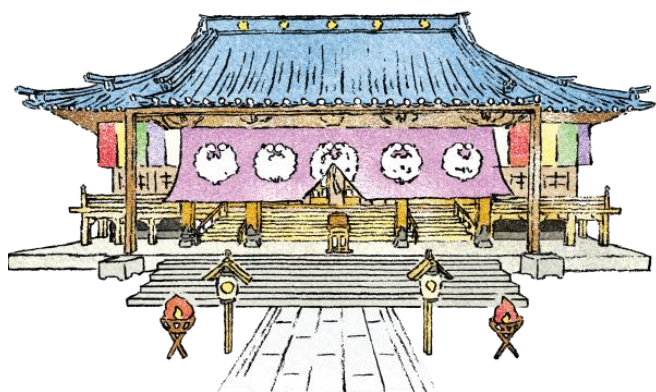
この度の御遠忌は場所もアルフォーレに変わり、法要の内容も大掛かりになります。本山より鍵役様をお迎えし帰敬式が実施されます。また、稚児行列も行われます。いずれもご門徒の皆様から希望を募りますのでこの貴重な機会には是非ご参加いただければと願っております。御遠忌につきましては、今回の浄敬寺だよりの御遠忌コーナーで申し込み方法や期限、実施イベントなどをお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。

昨年は柏崎市では例年に比べてもかなり多くの方が亡くなられたようです。私事ですが、私の長年の友人が今年七月に病気で亡くなりました。高校卒業後、それぞれ大学は違いましたが、長期休みになると柏崎に帰り、お酒を飲みながら様々な話をしたものです。友人は裁判官として奉職しておりましたので、お酒を飲んでも話せないことが数多くあり、そのストレスや大きいものがあつたことでしょう。人が人を裁くということの難しさは、私たちがテレビワイドショーを見ながら好き勝手なことを言っているのとは違い、「いのち」に関わる問題です。本来人間の領域を超える仕事をやらねばならないことは、性格が真面目であればあるほど辛いこともあつたことでしょう。人のいのちには限りがあります。しかしその限られたいのちという実感を日頃感じることが少ないのが現実です。年が

明けますと新しいカレンダーを家のあちこちに掛けます。その中に一つに今では珍しい日ごよみがあります。一月はまだまだ分厚くて、一年は長いなと思われまます。しかしこの厚い日ごよみは私に約束された日数ではありません。一枚一枚が私に与えられた大切な一日なのです。ややもするとめくることを忘れて数日分をまとめて破いてゴミ箱に捨てているのが現実ですが、それは自分の生きていく姿でもありません。与えられていくのちの尊さ、重さに改めて思いを致し、今年一年を歩んでいきたいと思っております。ご門徒の皆様にも今年一年が明るく輝ける年でありますことをお祈り申し上げます。

合掌

(住 職)



☆庫裡便り (坊 守)

◎「最近亡くなられた親戚の方のお気持ちを形にしたい」と、墓地の階段に手すりをご寄付いただきました。とても上りやすくなりました。有難うございました。

◎十一月五日〜八日の三条別院お取り越し報恩講では、本山からお越しいただく鍵役様の接待は坊守会の担当です。今年は次期御門主の能慈院殿様が初めて御参修されました。能慈院ご夫妻はとても気さくに接してください、用意した最上屋さんの生菓子とお抹茶をととても喜んで召し上がってくださいました。また今年の十組御遠忌法要にも御参修予定の信悟院殿はじめ随行の方々の接待も緊張の中で務めさせていただきました、何とか重責を果たすことができました。

◎五月十九日(火)は浄敬寺のお引上げ報恩講です。真宗門徒にとつて一番大切な法要とされています。市内法中寺院方のご出仕で勤まります。山菜、野菜中心の精進料理のお齋を用意してお待ちしています。どうか例年にも増して沢山の方々のご参詣をお願い申し上げます。

◎二女千晶は十二月二十日から公開されている映画スターウォーズ最新作「スターウォーズ／スカイウォーカーの夜明け」に、引き続きヒロインのレイの声優として出演しています。公開前の試写会の後、大役を無事に終えた安堵と共に、この歴史ある大作に関わることでできたことへの幸せや、自分が出演した三部作の数々の思い出がよみがえり、感激で胸があつくなつたと話していました。機会があれば、どうか皆様もご覧いただければと思います。



☆二〇一九年後半を振り返って

◎お寺でお茶席体験（九月八日）

前年に大好評をいただいた子ども達向けのお寺でお茶席体験。今回は、子ども達が長くお世話になっている「運動遊び塾しらさんち〜あそびー（あい）ラボ」とのコラボ企画で開催しました。

京都へ旅するとそれぞれの神社仏閣にワンコインほどでお茶席が用意されていることがあります。まったく作法を知らなければ遠ざけてしまいそうですが、一度経験してもらえたら、この機会を楽しむことができるのではないのでしょうか。お茶を楽しめる程度の最低限の作法をお伝えし、失敗の許される場で子ども達に日本文化を体験していただければと思っております。



◎秋彼岸（お中日・九月二十三日）法話 当院

台風の影響で延期となりましたが、毎月の「歎異抄をよむ会」の総括学習会として、十月に加賀市光圃坊住職の佐野明弘先生からお話いただく予定でしたので、歎異抄の内容に触れてお話ししました。



親鸞聖人はどんなことをお考えになっていたのか、ということについて、歎異抄や晩年のお手紙に頻繁に出てくる言葉に「はからい」という言葉があることに注目しました。「はからい」とは思ったことと結果が結びつかない、ということですが、しかし、私たちはそんな「はからい」に意味を持たせて「これでよし」と押さえようとしません。親鸞聖人は衆生が「これでよし」と思えることでは、とても往生はかなわない、といわれています。

◎『音市場』開催（九月二十九日）

毎年恒例となった『音市場』、今年も三組のミュージシャンと多くの方からご来場いただきました。会場としてお貸ししているイ

ベントではありませんが、出演者の方や聴衆の方とお話してみると、浄敬寺に縁のある方がいらつしやり、寺の歴史の再認識と新たな繋がり・広がりを感じています。

一日パスポートで、市内の会場を回れるイベントです。時期になるとチケットもお預かりしていますので、ご希望の方はお声掛けください。

◎三条別院報恩講お取り越し 十組団体参拝（八日）

八日の十組団体参拝には、浄敬寺から三名の方と住職が参加し、結願日中（御満座）をお参りしました。ご法話は東京教区の武田定光師で、私たちの日常に起こる様々な出来事の例えに、真宗の教えを先生の感得されたお言葉で丁寧にお伝えいただきました。法要には二〇二〇年六月に門首継承を控えた能慈院殿お鍵役が出仕され、お話を聞きすることができました。

報恩講期間中、坊守はお鍵役の接待やおときの手伝いと、教区の坊守会長としてのお役目も果たしました。五日の音楽法要には坊守と浄敬寺御門徒二名の方から合唱団としてご参加いただきました。晴香も連日外陣勤めのお役として通わせていただき、今年三条別院お取り越しが無事円成いたしました。

◎赤倉有縁講（十一月十三、十四日）

聞光寺様の団体と一緒にバスツアーにて、三名で参加しました。赤倉ホテルの温泉に浸かりながらゆっくり聴聞してまいりました。初めて新井別院に参詣し、三条別院建立の元になった願生寺の異安心事件のお話をお聞きしました。翌日は長野のりんご狩り、ベジタブルランチバイキングと善光寺に参詣し帰路に着きました。来年は皆さんもぜひご参加ください。（坊守記）

◎しまい講（十一月二十四日）法話・住職

御本山では御正忌報恩講の期間中、浄敬寺では一年の締めくく

りのお講でした。住職からの法話に続いて、勤行・おときがありました。私たちは日々の生活の慌ただしさの中で、自らのいのちの姿を見失い、ただ漫然と一日を過ごしてしまっているのが現実です。諸行無常のいのちを生きている私達ですが、与えられたいのちの重さ深さを改めて感じさせていただき、報恩の日々を送らせていただきたいと思います。

◎年末法話会 法話 梨本 哲哉師 (十二月十五日)

今年最後の法話会でしたので、開会式を兼ねて浄敬寺同朋の会物故者追弔勤行を行いました。ご親族、浄敬寺の年中行事によく通ってくださった方、皆様それぞれが親しくお付き合いられてきた方を想いながら、同朋唱和勤行を行いました。法話会に初めて参加してくださった方もおられ、一年の締めくくりに御門徒の皆様と一緒に勤め・聴聞できたことを大変うれしく思いました。

ご法話は、弥彦村の佛光寺派法圓寺のご住職・梨本哲哉氏にお願いしました。二〇一九年六月、新潟市の木揚場教会布教大会にて准坊守・晴香が御伝鈔を拝読させていただいた際、梨本先生は布教使としてご出向されており、そのご縁が繋がり、この度初めて浄敬寺においていただきました。

「真宗の救済」という講題でお話いただき、私たちの現状や私たちの姿が本当に問題であったことに気付かされるようなお話を、沢山の例をあげてお話いただきました。親鸞聖人が大切にその教えを聞いていかれた善導大師が残してくださいました「経は教であり、それは鏡である」ということを、先生は「自分の身を教えの鏡に照らしていけるか。それは一生聞法していけるか」ということであり、信心の姿です」とお話してくださいました。「ただ念仏」の教えを丁寧にお伝えいただき、重く響きました。

法話会の後には懇親会を行い、年中行事の際にお顔を合わせていただく浄敬寺御門徒の皆様同士、改めて懇親を深めるよい時間となりました。

☆お寺潜入レポート 第三回

浄敬寺の中の意外と知られていないこと（内部情報？）を准坊守・晴香目線でお知らせする『お寺潜入レポ』。今回は「浄敬寺手作りおときのヒミツ」です。

☆報恩講のおとき

「庫裡だより」にもありますように、坊守が相当な力を込めて作成しているのが、山菜中心の精進料理、報恩講のおときです。准坊守晴香の目から見て、ほとんど命がけです。

冬囲いを外し春彼岸が過ぎると、坊守による報恩講に向けての食材集めが始まります。GWに入る頃にはもう山菜のことではない…は言いすぎかもしれませんが、遠からず（笑）

☆手作りおときを支えてくださっている方々や食材

*御門徒の皆様

…お届けいただく様々な山菜・野菜・お米が材料です

*坊守の故郷・高柳方面の大地が育てた山菜

…故郷だからそのルートがあるようです☆

*昆布や麩等の乾物は、主に御門徒の今井商店さんから

☆浄敬寺的、「おとき」の楽しみ方

①親鸞聖人が小豆がお好きだったとお伝えがありますので、報恩講には小豆を煮ます。報恩講としまい講のみの特別メニューですので、ぜひご賞味ください。

②完全手作りですので、レシピが気になる方は遠慮なくお尋ねください。

《注》晴香は現在のところお答えできません（笑）

③寺でも用意しておりますが、日頃から少食の方はマイタッパーご持参で♪



～浄敬寺の報恩講や盆参会のお勝手チーム～
前日の仕込からお手伝いいただく武本さんをチームに、下原地区の吉田さん3名、常盤台の渡辺さんからもお力添えいただいています。



☆二〇二〇年前半の行事予定

一月一日 修正会勤行 朝六時より

一月一〜二日 年始参

***真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう**



一月十一日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時〜

二月八日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時〜

三月十四日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時〜

三月十七〜二十三日 春彼岸

*お中日 二十日(春分の日)

午前十時半〜法話・勤行後・おとき

四月十二日(土) 三条教区第十組

宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要

(文化会館アルフォーレ)

ちよっこら解説
特集ページをご覧ください

五月十九日(火) 報恩講お引き上げ 午前十時〜

法話 今泉 温資 師

引き続き 勤行・おとき

「報恩講」は、
真宗門徒にとっ
て最も重要な年
中行事です

六月十三日(土) 歎異抄をよむ会 午前九時〜

六月二十七日(土) 夏の法話会 十三時半〜

講師 佐野 明弘 師 (石川県加賀市光闡坊住職)

七月十四日(火) 盆参会(盆内) 両日とも十時半〜

十五日(水) 法話・勤行・おときがあります

八月二日(日) 夏休み子どもの集い 午後四時〜

八月十三日〜十六日 盂蘭盆会(お盆)

十三日・・・ 午前六時より 本堂にて勤行

定例法話会 『歎異抄をよむ会』のご案内

*日時 基本的に第二土曜日午前九時より

*内容 『歎異抄』の解説、正信偈のお勤め

終了後、自由参加で茶話会あり

*持ち物 赤本 念珠 『歎異抄』の冊子



☆「三条教区第十組宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌」

四月十二日 厳修

『三条教区第十組宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌』

☆『御遠忌』とは？

親鸞聖人のご命日は旧暦で十一月二十八日です。御本山・真宗本廟では、十一月二十八日を御満座として一週間、各地の別院ではそれ以前に数日間、一般の寺院ではまた別の日に設定して毎年の報恩講をお勤めしています。浄敬寺の報恩講は五月十九日です。

『御遠忌』とは、五十年の節目にあたる報恩講のことで、宗祖・親鸞聖人の年忌法要と言ってもいいでしょう。御本山では二〇一一年に厳修されましたので、団体ツアーを組んでお参りしました。

☆十組の『御遠忌』

全国の真宗大谷派寺院は、それぞれの地方ごとに教区・組が区切られており、私たちの柏崎刈羽地域は三条に別院・教務所がある「三条教区」の「第十組」です。「組」は「くみ」と読み「そ」と読みます。

二〇二〇年四月に組（柏崎刈羽地域）の真宗寺院でもこの『御遠忌』をお勤めすることとなりました。二〇〇九年にお待ち受け大会を行いました。この度がいよいよ本番・五十年に一度の法要を厳集します。

法要や記念講演の他に、法名をいただく帰敬式、稚児行列、お買い物広場や子供向けイベントブースなどが催されます。お買い物広場では、当日のお昼にできる飲食物やお土産を用意しています。

☆法要と記念講演・・・入場にはチケットが必要です

*法要

本山より御鍵役をお迎えし、組内寺院の御住職・当院方の声明と、合唱団とでお勤めします。音楽と伝統声明の融合した法要で、正信偈を同朋唱和でお勤めし、念仏和讃を八海で勤めます。各自はこの冬に法要に向けての習礼（しゅらい）・お稽古をみっちり行うようです☆

晴香の
ちよっこら解説
&ご案内

*記念講演

元・大谷大学教授の延塚知道先生による記念講演です。

晴香の大谷大学在学中のゼミの指導教諭です。延塚先生のお話、ぜひ多くの方に聴講していただきたいです。

☆帰敬式（おかみそり）受式のおすすめ

帰敬式は仏弟子の名のりである法名をいただく儀式です。私たち真宗門徒は死を表現するときに「お浄土へ還り、仏さまとなる」といってききました。それは、亡き方の生き様と命終えていく姿がそのまま、私たちへの教えとなるからです。浄土に還り後を導くような生き方をしたい：そういった意味でも、法名は生前にいただき仏弟子として人生を歩みたいものです。この度は真宗本廟より御鍵役がおいでになり帰敬式が執行されますので、様々な事情で京都まで出向くのは困難な方にはぜひお勧めしたい機会です。

- ・ 集合時間 十一時三〇分
 - ・ 受式 十三時四〇分～十四時二〇分
 - ・ 眞加金 一万三千元
 - ・ 服装・他 平服・お念珠をご持参ください
- (法要・記念講演への入場料・記念品・昼食代を含む)

☆稚児行列（参堂列）参加のご案内

大きな法要の際には、お堂へ向かう参堂列を組み行進します。これを「お練り」、儀式としては「庭儀（ていぎ）」といいます。お稚児さんの衣装を着け歩いてくださるお子さんを募集しています。お練りの後は楽しい人形劇を観て、イベントブースでも楽しんでいただけます。

- ・ 日程 十三時三〇分アルフォーレ集合、着付け説明後着替え
- ・ お練り 十五時出発予定 アルフォーレ周辺を歩きます
- ・ 参加費 四千元（衣装レンタル代）
- ・ 募集対象 幼児～小学六年生（四歳以下は保護者同伴）
- ・ 用意する物 歩きやすい白系の靴と白い靴下

帰敬式受式・稚児行列参加のお申し込み締め切りは二月十六日です。詳細の案内をご希望の方はお知らせください。



『シヨウリヨウバツタ』

次男が「自分で世話をする」と誓い、誕生日に飼い始めたハムスターが亡くなりました。購入先の係員の説明通り一年以上三年未満の二年半の寿命でした。次男思いの三男が亡くなったハムスターの代わりにと、ハツカネズミを捕まえて籠に入れましたが、妻に野生のネズミは病気を持っていると言われ、しぶしぶ庭に逃がしていました。そんなことがあり、ハムスターの籠の中にはまだ何もいません。その籠の隣に三男が夏に捕まえた「シヨウリヨウバツタ」が干からびて生前と変わらぬ姿で虫かごの中にいます。長男が何故、シヨウリヨウバツタという名前なのか？というので調べてみましたら正式には「精霊バツタ」というそうです。お盆から秋彼岸にかけて発生するバツタで、何より形が精霊流しの舟の形をしていることでその名が付けられたそうです。

昔の人の少しでも生活に仏教を取り入れようという試みにはまったく頭が下がります。

(当 院)



☆編集を終えて：

ネット印刷で浄敬寺便りの印刷を頼むこと数回。師走に入ってから子ども達諸共に体調を崩し、数年ぶりに寝込んでしまいました。予定通りにならないのはいつものことではありますが、元旦発行に間に合うのかどうか追い詰められながらの三十四号作成でした。お盆にはカレンダー通りの営業をされる、某ネット印刷会社にも、年末年始はしっかりと休業があります。「ブラック企業」というワードが世に出てもう長くなりました。年末年始も休まず営業するお店が増え、二十四時間お買い物もできるようになり、パソコンでクリックしたものが翌日に届く……。慌しい年末、そんな便利な生活に慣れてしまっている私にふと気付きました。世間で言われるところの「ブラック企業」を作っているのは、この私かもしれない。何かに責任を押し付け、不平不満を言っている日常ですが私と繋がりのないものは何一つこの世に存在しないことを改めて思わされています。

問題は山積みです。オリンピックイヤーの二〇二〇年、どんな生き方を選びましょうか。

(晴 香)

☆メールアドレス

住職 tom814@kismet.or.jp

当院 minipapa@kismet.or.jp

晴香 haru310@kismet.or.jp

☆ブログ

『真宗大谷派浄敬寺』

小僧☆はるかの気まぐれ日記』

https://blogs.yahoo.co.jp/haru_0310_naga

本年もよろしくお願
いたします

